



Team  
Dainan

八千代市立大和田南小学校  
《校長室だより》  
令和3年度 第26号  
令和3年 10月26日

## 6年生 日帰り修学旅行「海の生き物とのふれあい」

～「感染症拡大防止」と「学習活動」の両立を図る～



シャチの華麗なる  
オーバーヘッドキック

今年度、新型コロナウイルス感染症の現状を鑑み、子供たちの安全・安心を第一に考え、1～5年生の校外学習を中止としました。6年生の修学旅行については、一生に一度しかない特別な行事でもあります。新しい生活様式の中で「感染症拡大防止」と「学習効果」を天びんにかけ、計画を進めてきました。

当初は、6月に日光方面に行く予定でしたが、感染症拡大防止の観点から市内

内全ての小・中学校が2学期に延期をしました。本校は、10月8日に延期をしましたが、9月は緊急事態宣言が発令されておりましたので、キャンセル料が発生するぎりぎりのところで中止の判断をせざるを得ませんでした。再度の延期ということも検討しましたが、宿泊施設の確保やインフルエンザ等感染症の広がる時期等も考慮し、少しでも安全・安心が確保できる条件のよい時期での日帰り修学旅行の判断をしました。

場所の選定に当たっては、昨年度と同様に出発時刻や帰校時刻、昼食場所、雨天時の場合の活動、費用などを総合的に判断し、鴨川シーワールドとしました。

バスについては、換気など感染症対策がとられていることや費用対効果を考え、ひとクラスにつき1台としました。バスの中での過ごし方も大幅に見直しました。飛沫がとびやすくなるバスの中でのレクリエーションは行わず、DVDの鑑賞のみとしました。おやつについても、バスの中では食べずに昼食後のみとしました。

その他にも、トイレ休憩や食事前など、要所、要所でアルコールスプレーによる消毒を行いました。食事についても、見学の仕方についても、基本となるベースは、すでに学校でとっている対策と大きく変わるところはありません。6年生の子供たちは、感染リスクの軽減を図りながら、学校と同じように上手に活動を行うことができました。





今回の日帰り修学旅行を実施するにあたり、子供たちの主体性を伸ばす機会を少しでも多く設けたいと考え、出発式、帰校式は子供たちの手で運営を行いました。今回の校長室だよりでは、代表児童のお話を紹介いたします。

【出発式代表児童 木村優さんの話】

出発式担当児童



私は、今日をととても楽しみにしていました。「楽しみ」と言っても「シャチのショーが楽しみ」「魚を見るのが楽しみ」というわけではなく、「どれだけ臨機応変に動けるか」に期待していました。

班で行動していく中で、必ず何かうまくいかないときがあると思います。そんなときでも、すぐに気持ちを切り替え、前向きに計画を立て直せる人が本当に楽しめる人だと思います。トラブルがあっても、それを「経験」として、その先の結果が笑顔で終われるものにしたいです。

皆さんも自分の中に何かめあてをもって「トラブルがあっても思い出に変えられる1日」にできるといいですね。

【帰校式代表児童 岩上莉桜さんの話】

皆さんは、今日の修学旅行で思わず人に話したくなってしまう思い出はできましたか？そして、「学びを修める」という言葉にあるように、学んだことは何ですか？

私は、服がびしょびしょになるほどの迫力満点のシャチのショーがとても思い出に残りました。そして、友達と話し合い、計画することで、お互いの意見を尊重し合い、話し合うことの大切さを学びました。

皆さんも今まで培ってきた経験と、今日得た経験や学び、思い出を生かして、残り少ない学校生活もすてきなものにできるといいですね。

帰校式担当児童



2人の代表児童のお話は、6年間の学びを感じることができる素晴らしい内容でした。卒業までの5か月、更なるステップアップを期待できる1日となりました。

10月に入り、感染者数も減少してきました。日本では、ワクチンの接種もずいぶん進んできましたが、小学生については、12歳以上という年齢制限があり、全員が接種できるわけではありません。また、ワクチンの接種が進んでも新型コロナウイルスがなくなるというわけではありません。当面の間、このような状況が続くのではないかと考えられます。

あと5か月余りで6年生は卒業、そして、1～5年生は進級です。新型コロナウイルスに限らず、将来にわたって課題が生じたときに、自らの意思で判断し、行動できるよう全職員一丸となって子供たちを育てていきたいと思っています。

